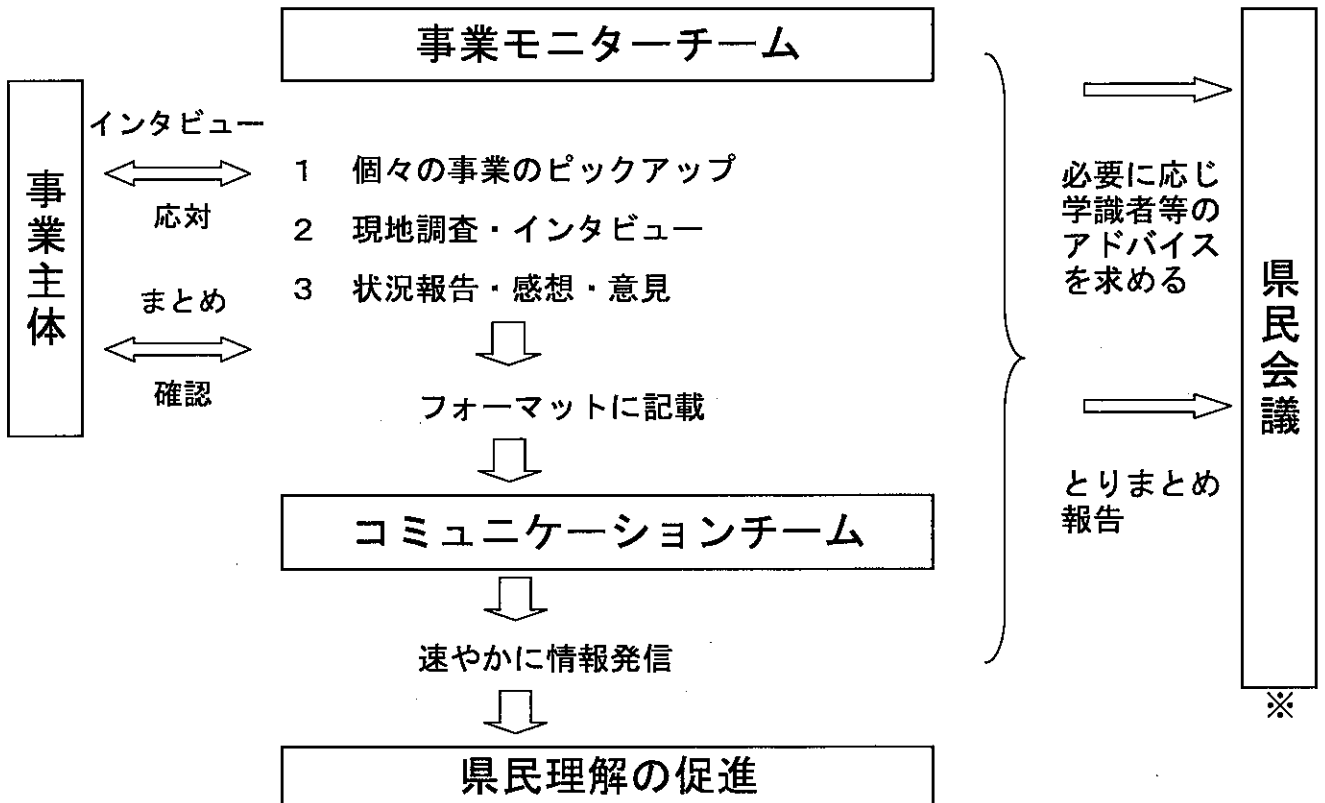


事業モニターチームについて

チームの役割：個々の事業の状況を県民の目線でモニターし、その結果を発信することにより、県民理解の促進に資するものとする。



※ 最終的には施策調査専門員会の検討報告に応じ、県民会議での施策議論を深めることに資する目的も持つものとする

- 1 事業モニターチームは森チームと水チームの2班編成とする。
- 2 1回のモニターにつき特別対策事業の1事業につき1～2箇所を対象とする。
- 3 個々の事業のピックアップの方法は、金額や面積が多いものとする。
- 4 平成20年12月ごろまでに9つの個別事業についてモニターする。(下線部変更)
- 5 市民事業等支援制度において支援した団体の事業についてモニターする。(追加事項)

事業モニターチーム意見照会結果（意見要旨）

課 題	意見要旨	委員名	対 応
報 告 内 容	○活動結果報告の内容は、「県民会議資料」を基本とし、初回の現地調査以降、必要に応じて修正すればよい。	真覚	各チーム 及びコミ ュニケー ションチ ームとし て検討
	○活動結果報告の内容は、「県民会議資料」を基本とする考えでよい。ただ、よく出来ている項目と同時に課題および事業の展開工程も明示してほしい。	柳川	
	○資料2の内容は、基本原稿としてこのまま保存する必要があると思うが、分かりやすく、簡略化することと、日常生活レベルの関心の度合いに合わせた内容にすることが必要。	長谷川	
	○委員の、市民の目線らしい感想や意見がいかされるような編集、レイアウトになればよい。	吉村	
	○ウェブサイトなど公表の媒体にもよるかと思うが、概要部分も含めて分かりやすさ、見易さに工夫していただければと思う。	吉村	
	○表現方法は、口語調か文語調か。	高橋 (弘)	
	○「誰がどういった」よりも現地視察で見た視点、項目ごと内容を記載する（それを発言した委員名）とした方が、読む人にわかりやすい。そのために、予め視点、項目だてが必要である。	高橋 (弘)	
	○次の記入欄を設けてほしい。 ①公共事業は情報公開、説明責任が必要です。 ・事業実施にあたり「計画段階の地元への説明」が行われたか。 ・その時の概要（意見、提言・計画への反映など） ②実施主体は自治体となっているが、実際に行った（行っている） ・設計者名（コンサルタント） ・施工業者名（元請ゼネコンなど） ③計画の位置づけ ・都市計画、環境基本計画との関係 ④環境影響調査または環境配慮の内容 ⑤維持管理計画 ・公共事業は「造ること」に金をかけるが、「造ったあとの維持管理」に金をかけない、考えていない。 ・水質などはモニタリングが行われるが、それ以外、施設そのものの目的達成、機能維持のために必要な維持管理・保守点検などが、予め計画され確実に実施される必要がある。	高橋 (弘)	

事業選定	○モニターする事業は多いほど良い。9カ所で良いのか。	坂本	各チームの検討
	○モニター先の検討は視野を広くして決めたい。	坂本	
	○現地学習会は、整備済の協力協約林を見たが、荒廃林をどうするかが問題と思うので、崩落地や未整備荒廃林の整備前、整備後、モニタリングが必要。	石村	
	○事業選定の基準として、事業本体の進捗や成果が期待される時期なども考える必要ではないか。例えば、今年手がけた場所であっても成果が見え始めるのは翌年以降という性格の事業にあっては、手がけている現場を見ることと、終わってから期間を置いて見ることの両方が実現されて初めてモニター活動の意義がある。しっかりと事業を見届けるといふ流れを作る意味でも、またあせって成果を求めた結果事業の評価を誤るといふ失敗を避ける意味でも、その点に配慮してほしい。	吉村	
進め方	○事業モニターチームの活動の進め方に特段の注文はありません。基本構想に沿ってまずやってみよう。	真覚	—
	○現地・現場の方々との話し合う時間をしっかり確保し、通りいっぺんの質疑応答でなく、双方の意見交換を密にしたい。	高橋(二)	—
	○モニター活動が、単に「こんなことをしています」といふ紹介にとどまらぬよう成果目標を高く持つのであれば、事前準備や勉強が非常に大切で、事前の勉強いかんで成果の8~9割は決まるといふので、それを踏まえた日程、情報共有が望まれる。	吉村	事務局で検討
経費	○コミュニケーションチームのメンバーが、他のモニターチームの活動に参加する場合には、交通費を支給して頂ければありがたい。	牧島	事務局で検討
その他	○ポイントを外さぬよう、偏見にならぬよう、税の無駄使いにならぬように広い視野で見たい。	高橋(二)	—
	○12の事業の進捗状況によるが、県民会議の取り組んでいること、検討、議論していることなどもどんどん発信していく必要がある。また、一般県民の視点で内容を検討したい。	長谷川	コミュニケーションチームで検討
	○モニター水チームとしては水源地域の水量（多数ある沢）の経年の変化と環境保全状況と生物多様性の実態をモニターすることを項目としたい。	柳川	実施不可

事業モニターチームについて

○ 対象事業

森チーム

- ① 水源の森林づくり事業の推進
- ② 丹沢大山の保全・再生対策
- ③ 溪畔林整備事業
- ④ 間伐材の搬出促進
- ⑤ 地域水源林整備の支援

水チーム

- ⑥ 河川・水路における自然浄化対策の推進
- ⑦ 地下水保全対策の推進
- ⑧ 県内ダム集水域における公共下水道の整備促進
- ⑨ 県内ダム集水域における合併処理浄化槽の整備促進

○ チーム構成

【森チーム (7名)】

五十音順





	氏名	
1	片山 幸男	関係団体
2	倉橋 満知子	関係団体
3	増田 清美	関係団体
4	石村 黄仁	公募
5	坂本 勝津雄	公募
6	真覚 邦彦	公募
7	吉村 妙子	公募

【水チーム (6名)】

五十音順

	氏名	
1	天内 康夫	公募
2	高橋 弘二	公募
3	高橋 二三代	公募
4	長谷川 朝恵	公募
5	牧島 信一	公募
6	柳川 三郎	公募

○ モニタースケジュール (案) 【平成20年度】

	森チーム	水チーム	コミュニケーションチーム
4月 ～ 6月	⑤地域水源林整備の支援	⑥河川・水路における自然浄化対策の推進	⇒  ニュースレター
7月 ～ 9月	②丹沢大山の保全・再生対策 ③溪畔林整備事業	⑧県内ダム集水域における公共下水道の整備促進 ⑨県内ダム集水域における合併処理浄化槽の整備促進	⇒  ニュースレター
10月 ～ 12月	①水源の森林づくり事業の推進 ④間伐材の搬出促進 市民事業支援団体調査	⑦地下水保全対策の推進 市民事業支援団体調査	⇒  ニュースレター
1月 ～ 3月			⇒  ニュースレター

